

2023年度の高大人事交流事業をふりかえって

—「探究」を中心に—

名古屋市立大学特任教授 吉田 一彦

はじめに

名古屋市立大学の高大連携・高大人事交流の事業の2023年度の成果について報告する。本年度は、名古屋市立大学側からは吉田一彦が名古屋市立菊里高校へ、名古屋市立高校（名古屋市教育委員会）側からは湯浅郁也先生が名古屋市立大学に派遣された。私は、月水木が高校勤務、火金が大学勤務という形態で活動した。高校での活動としては、菊里高校を拠点にしつつ、名東高校、桜台高校、向陽高校にも適宜出向いて特別授業、諸行事を実施し、緑高校、山田高校、さらに千種中学でも活動した。



今年度も、教室で種々の特別授業を実施し、また古墳巡りや名古屋城探索などのフィールドワークを生徒とともに行ない、さらに修学旅行事前学習として「奈良を歩く——歴史と文化」「広島歴史と文化」を語った。進路指導関係では、名古屋市立大学入試説明会、文理選択にあたっての「文系の魅力・理系の魅力」、小論文講座、高校生と大学生の交流会、「国公立大学の特色と魅力」の講演、種々の進路相談などを実施した。また、特別授業番外編として「中東の情勢の理解——歴史・宗教・戦争」を菊里高校で語った。ここでは、紙幅の関係からそれらの詳細については割愛し、新科目「探究」をめぐる活動を中心に報告したい。

新科目「探究」の可能性

日本の高校では2022年度から新カリキュラムが開始され、複数の新科目がスタートした。「情報」「歴史総合」「地理総合」「公共」そして「探究」などである。高校での〈学び〉は、新カリによって変わり始めた。その中で、多くの大学が注目し、期待しているのが、「総合的な学習の時間」を改訂して開始された「総合的な探究の時間」（通称「探究」）だと思う。

高校では、「主体的・対話的で深い学び」をめざして、各学校なりに工夫して「探究」の授業が実践されている。菊里高校の「探究」では、高1はグループ研究、高2、高3は個人研究の形式で授業が展開されている。高2の個人研究では、生徒たちは、各自が自分なりの学問的な〈問い〉を立て、自分自身で研究テーマを定める。そして、どのように今後の研究を進めていくかのアドバイスを担当教員から受けながら、先行研究を学び、あるいは実験とか、アンケート調査などを実施して研究を深めていく。そして最後は研究成果をスライドにまとめてプレゼンテーションを行ない、質疑応答を行なう。それが新科目「探究」の一年間の姿になっている。

これまで、高校における「学習」と大学における「研究」とは、必ずしもストレートには連続しないところがあった。そうした状況の中で、「探究」はそれを乗り越える科目になってくれるのではないかと私はこの新科目に期待している。今後、高校の新カリに対応して大学入試も変わっていくことだろう。いや、すでに変わり始めた大学が散見され、「探究」は日本の教育界に大きな刺激を与えている。これを起爆剤に日本の高校や中学の教育が変わっていくといいなと私は考えている。

「探究」の授業に参加

菊里高校で、私は、今年度、高2のG組、A組の2クラスの「探究」の授業に毎回参加した。大学教員には論文指導の経験があるが、高校教員は初めての指導である。私は、テーマの絞り方、先行研究の調べ方、引用の仕方、タイトルのつけ方、研究の深め方、スライドの作り方などをクラス全員に、あるいは巡回しながら個別に説明して授業を補助した。生徒たちの「探究」の進展は、一学期から二学期前半頃まではスローペースで、どうなることかと不安になった。けれど、二月期後半頃から急速に進展して中味の精度が濃くなり、三学期になると、個人差はあるが、「探究」成果をきれいにスライドにまとめ、上手にプレゼンを行なうようになっていた。3月の校内の探究発表会では、クラス代表が立派に発表し、大きな教育効果があったことを実感した。

「高大連携 探究活動成果発表会・交流会——白熱探究教室」の開催

昨年の3月頃から、名古屋市立高校全体の発表会・交流会を名古屋市立大学を会場に開催したいと考え、その後、各方面と相談して企画を作ってきた。そして、2024年3月16日、さくら講堂にて「高大連携 探究活動成果発表会・交流会——白熱探究教室」を開催することができた。主催は名古屋市教育委員会と名古屋市立大学で、名古屋市立高大連携事業として実施した。名古屋市立高校は9校から15チーム（含個人発表）が出場し、大学からは「医薬看連携地域参加型学習」（AMEC）から2チーム、「地域連携参加型学習」から1チームの計3チームが出場した。成果発表はテーマ別の3部構成、各発表は発表時間7分、質疑応答3分とし、大学教員6人が講評を行なった。各部間の休憩時間は多めに取り、ポスターセッションとして交流の時間とした。当日は盛会となり、充実した発表と討論、講評、意見交換、交流が行なわれた。交流の時間に、高校生同士、高校生と大学生、そして多数参加した高校の先生方がにこやかに交流していたことが印象深い。また私立高校の先生や他大学の先生も参観された。こうした発表会が次年度以降も開催できたら意義深いと考える。



市立高校生×市立大学生

高大連携 探究活動成果発表会・交流会

～白熱探究教室～

初開催（試行実施）

名古屋市立高大連携事業

日時 令和6年 3月16日(土) 12:30～17:30 (開場 11:30)

場所 名古屋市立大学 桜山キャンパス さくら講堂

内容 市立高校生による発表 発表校9校15チーム(個人発表含む)
市立大学生による発表 発表3チーム
【主催】名古屋市教育委員会、名古屋市立大学

参加無料 定員500名

参観者大募集！(事前申込不要)

市立高校生が取り組んだ「探究活動」の成果を発表します
大学生も地域参加型学習で分かった地域課題について発表します
当日はステージ発表とポスターセッションの2つの形式で行います
高校生、大学生、保護者、学校関係者の皆さん等
ご自由に参加いただけます
多くの皆さまのご来場をお待ちしています

3年間の活動を振り返って

日本の教育は、現在、大きな変化の中にある。難しくなった共通テストが定着し、他方で11月入試（総合型選抜、学校推薦型選抜）で半数を超える受験生が大学に入学するようになった。そうした状況の下、生徒たちの選択肢は広まっている。自分が指導した高校生の中には、日本の大学に物足らなさを感じて、最初から海外の大学への進学を希望している生徒がいた。youtubeなどSNSにはすでにそうした情報があふれている。日本の各大学は、これからの時代、どういう研究・教育を実践・展開していくのか。真摯に考えていく必要があると考える。

この3年間、高大連携人事交流事業に携わり、多くの得難い体験をすることができ、大変勉強になった。関係各位に甚深なる謝意を表する次第である。この連携事業は高校にとって意義あるものであると同時に、大学にとっても大きな意義があるものと考え。次年度以降は、これまで積み上げてきたものを失うことなく、組織と組織としての連携の制度的枠組を練り上げて、高大の連携がさらに深められていくことを期待したい。

